

「教育に関する学校関係者向け意識調査」調査報告書（概要版）

標記報告書を別添のとおりとりまとめたが、その概要は次のとおりである。

第 1 章 調査概要

1 調査目的

これからのかながわの教育について、中長期的な視点から今後の政策の方向性を検討するために、教育現場の課題意識やニーズの把握に努めるとともに、基本となるデータの収集を行い、教育ビジョンの策定に資する。

2 調査実施状況

県内の 37 市町村教育委員会及び県立学校、県立総合教育センターの協力を得て、平成 17 年 8 月～10 月に調査を実施し、以下のとおりの回答数を得た。

回収率 88.4% (配付数: 12,287 回収数: 10,867 (含む無効 72)) (人)

対象者 \ 校種	小学校 (45 校)	中学校 (45 校)	高校 (23 校)	盲・ろう・養護学校 (5 校)	計 (118 校)
教職員	806	515	354	188	1,863
保護者	1,300	1,290	1,233	53	3,876
学校評議員	195	185	108	27	515
児童・生徒	1,394	1,446	1,636	65	4,541
計	3,695	3,436	3,331	333	10,795

※児童・生徒は小学生は 5 年生、中高生は 2 年生を対象としている

※盲・ろう・養護学校の内訳（盲学校：4 人、ろう学校：22 人、養護学校 39 人）
（小学部：11 人、中学部：15 人、高等部：39 人）

第 2 章 調査結果

※本紙は調査報告書の中より主なものを抜粋（「I - 1」等の数字は調査報告書の項目に対応）

I 子どもの実態

大人には「子どもの印象」や「影響を与えている存在」について、子どもには、「自身の状況」や「校外での生活」などについて聞くことで、子どもの実態を把握することにした。

調査の結果、大人は子どもを「明るく元気」で、「自分らしさを持ち」、「やさしさや

思いやりがある」と感じている割合が高い。

一方、子どもは、「ねばり強さがある」、「自分の力でものごとを決められる」、「みんなの役に立ちたい」については、大人が思っている以上に肯定的にとらえている。

悩みについては、「将来のこと」が最も多く、また、自分とのかかわりの深さや、悩んだときの相談相手としては、中高生になると「友人」が「親」以上の存在であると感じている。

また、「社会のルールやマナーを守っている」と意識している割合は高いが、「遊ぶために夜遅く外出する」などの具体的な事例について聞いたルールやマナーの意識は小中高と学校段階が上がるにつれて低下している。(I-1、2、4、5、6参照)

I-1 教育現場での児童・生徒の課題、最近の子どもの印象、自分自身をどう思うか

(「そう思う」(大人は + 「どちらかというと思う」) 一部抜粋)

(%)

項目	教員 (n=1863)	保護者 (n=3876)	学校評議員 (n=515)	小学生 (n=1394)	中学生 (n=1446)	高校生 (n=1636)
明るく元気である	88.8	72.8	68.4	60.4	54.8	52.6
自分らしさを持っている	56.1	62.2	40.0	51.8	51.3	54.4
やさしさや思いやりがある	60.5	64.5	43.5	33.7	34.2	41.1
ねばり強さがある	14.4	29.6	12.2	44.3	34.1	35.1
自分一人で選択や判断ができる※1	12.8	35.5	15.6	37.0	33.7	39.4
社会に役立とうとする心や公共心がある※2	26.4	34.1	23.9	64.9	58.5	47.7
社会のルールやマナーを守っている	45.2	59.2	33.6	40.5	45.7	51.5
食事や睡眠など生活が規則正しい	29.1	35.3	9.1	29.0	25.2	27.0

※1 調査票における子どもの設問では「自分の力でものごとを決められる」

※2 調査票における子どもの設問では「社会(みんな)の役に立ちたい」

I-2 子どもに影響を与えている存在、自分とのかかわりの深いもの (上位3項目抜粋)

	保護者 (n=3876)	小学生 (n=1394)	中学生 (n=1446)	高校生 (n=1636)
1位	親 (83.9%)	家族 (86.1%)	友人 (76.9%)	友人 (81.0%)
2位	友人 (61.1%)	友人 (78.7%)	家族 (62.2%)	家族 (58.7%)
3位	テレビ (49.5%)	テレビ (29.1%)	携帯電話 (35.7%)	携帯電話 (46.6%)

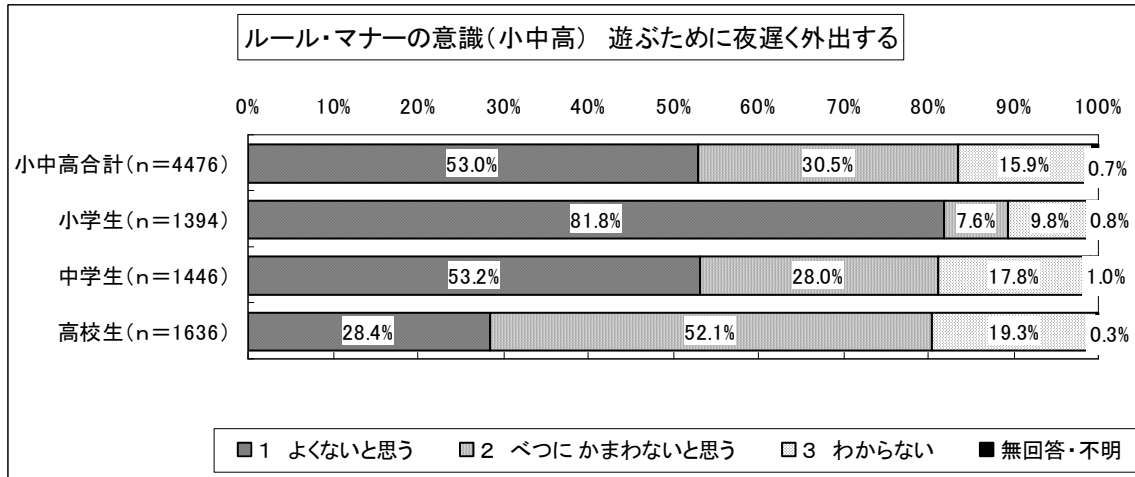
I-4 悩んでいること (上位3項目抜粋)

	小学生 (n=1394)	中学生 (n=1446)	高校生 (n=1636)	盲・ろう・養護学校生 (n=65)
1位	悩みはない (36.7%)	将来のこと (50.1%)	将来のこと (65.9%)	将来のこと (30.8%)
2位	将来のこと (31.8%)	悩みはない (23.7%)	学校のこと (17.4%)	悩みはない (29.2%)
3位	友だちのこと (25.8%)	友だちのこと (23.0%)	友だちのこと (17.2%)	友だちのこと 家族のこと (7.7%)

I-5 相談相手（上位3項目抜粋）

	小学生(n=1394)	中学生(n=1446)	高校生(n=1636)	盲・ろう・養護学校生(n=65)
1位	親(68.8)	同級の友だち(70.5)	同級の友だち(75.9)	家族(40.0)
2位	同級の友だち(61.8)	親(47.2)	親(43.0)	年上の友だち
3位	兄弟姉妹(23.6)	兄弟姉妹(16.9)	年上の友だち(18.9)	学校の先生(29.2)

I-6 ルール・マナーの意識（抜粋）



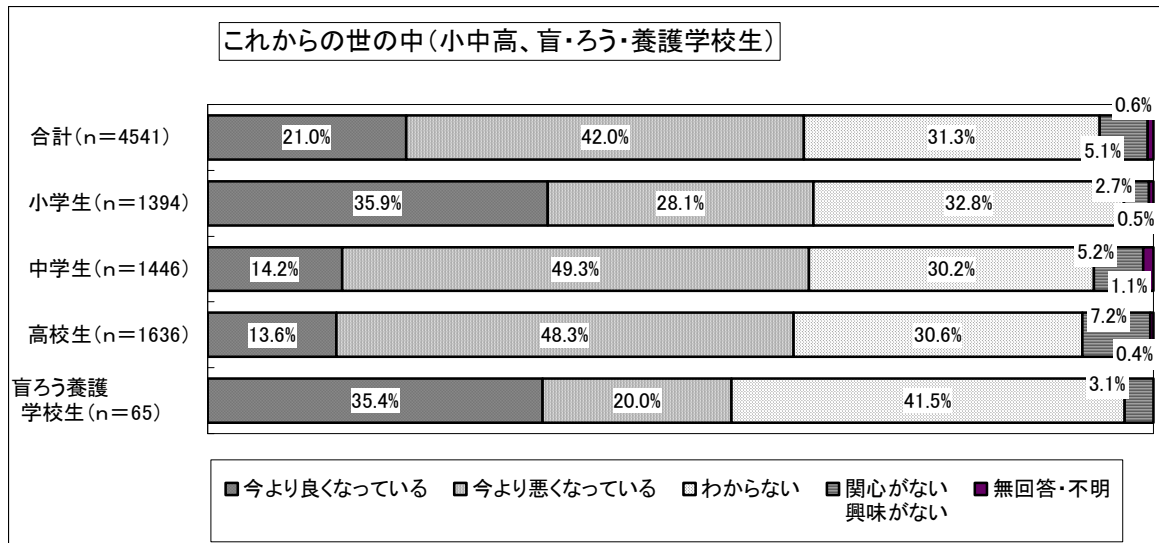
II 子どもの将来像

子どもには「これからの社会」と「勤労観」、「自分のなりたい人間像」、大人には「なっ
てほしい人間像」について聞くことで、描いている子どもの将来像について把握する
こととした。

調査の結果、中高生は、これからの世の中を「今より悪くなっている」と思っている
割合が高く、世の中に「関心がない」も小中高と学校段階が上がるにつれ増加している。

こうした中で、なってほしい大人像として、教員や学校評議員は「人を思いやる」、「ル
ールやマナーを守る」を、保護者は「困難を乗り越える」をそれぞれ多く回答しており、
前者は社会性を、後者は個人の生きる力を重視した結果となっている。(II-1、2・3
参照)

Ⅱ－１ これからの世の中



Ⅱ－２・３ どのような大人になってほしいか、どのような大人になりたいか(上位3項目抜粋)

	教員 (n=1863)	保護者 (n=3876)	学校評議員 (n=515)	小学生 (n=1394)	中学生 (n=1446)	高校生 (n=1636)	盲・ろう・養護 学校生(n=65)
1位	人を思いやる心を持っている (61.3%)	困難を乗り越えることができる (67.5%)	人を思いやる心を持っている (68.7%)	たくさんの友だちや仲間がいる人 (49.1%)	たくさんの友だちや仲間がいる人 (52.5%)	自分らしさをもっている人 (58.4%)	自分らしさをもっている人 (53.8%)
2位	社会のルールやマナーを守る (51.5%)	人を思いやる心を持っている (66.7%)	社会のルールやマナーを守る (54.8%)	自分らしさをもっている人 (37.9%)	自分らしさをもっている人 (50.6%)	たくさんの友だちや仲間がいる人 (51.4%)	人を思いやる心を持っている人 (52.3%)
3位	困難を乗り越えることができる (49.0%)	健康なからだや体力を備えている (52.3%)	健康なからだや体力を備えている (46.2%)	人を思いやる心を持っている人 (37.3%)	人を思いやる心を持っている人 (44.5%)	人を思いやる心を持っている人 (51.0%)	正しいことを最後までやりとげる人 (32.3%)

Ⅲ 家庭教育

家庭・学校・地域の役割などについて、教員、保護者、学校評議員に聞くことで、家庭教育などに関する意識や実態について把握することにした。

調査の結果、学校において「確かな学力の定着」や「個性を伸ばす教育」、「いじめや不登校などへの対策」に「取り組んでいる」と回答している人の割合については、教員や学校評議員に比べて、保護者は低くなっており、意識の差が見られる。

一方、家庭でのしつけや教育について、保護者の多くは、「ルールを守らせる」や「自

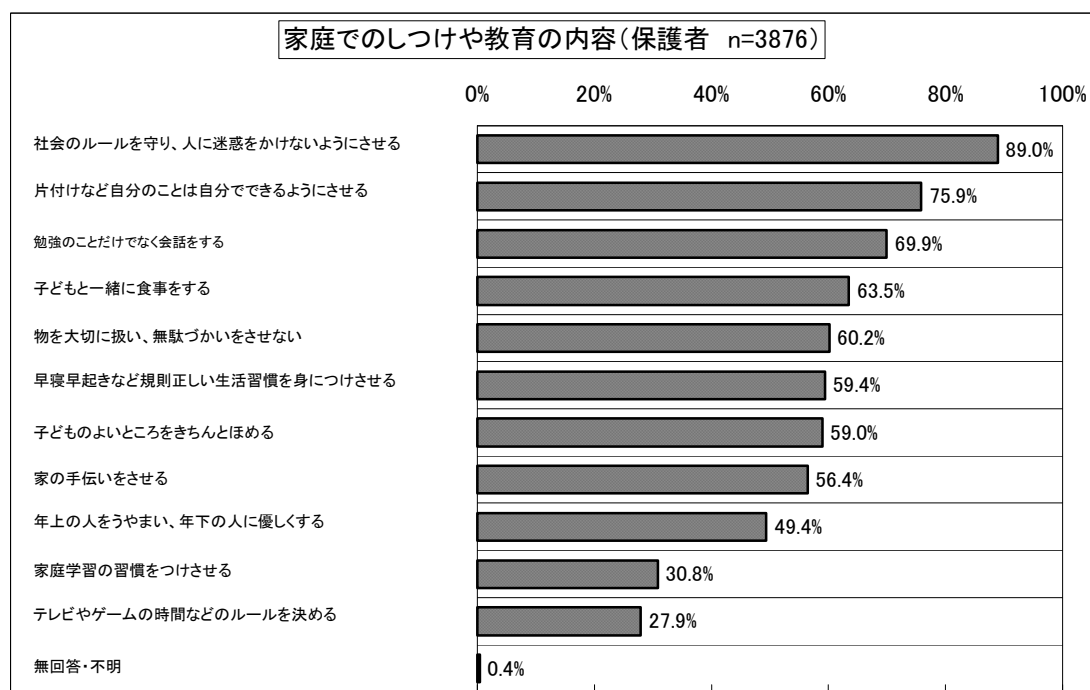
分のことは自分でさせる」ことに気をつけていると回答し、3割以上の人が「家庭ではしつけや教育を十分に行われている」と回答しているのに比べ、教員、学校評議員の割合は低く、同様に意識の差が見られる。(Ⅲ-1、5参照)

Ⅲ-1 学校・家庭・地域での教育課題（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）

(%)

項目	教員 (n=1863)	保護者 (n=3876)	学校評議員 (n=515)
学校では確かな学力の定着が図られている	41.8	26.8	46.4
学校では一人ひとりに応じた個性を伸ばす教育が行われている	35.9	13.7	31.7
学校ではいじめや不登校などに対応し、解決に取り組んでいる	75.3	22.8	54.5
家庭ではしつけや教育が十分に行われている	12.2	34.7	8.2

Ⅲ-5 家庭でのしつけや教育について気をつけていると思うもの



Ⅳ 学習活動

大人には、学習指導の重点のおき方や望まれる教育内容、子どもには自身の学習観を聞くことで、現在の学校教育におけるニーズを把握することにした。

調査の結果、学校での学習指導の重点については、教員、保護者、学校評議員のいずれにおいても、「自ら考える力や表現する力」を身につけること、「基礎・基本の学習」「集団の中で互いに学び合うこと」に重点をおいた方がよいと考えている割合が高い。具体

的に見ると「力を入れてほしい教育内容」では、保護者と学校評議員全体で7割が「国語教育」と回答している。(IV-1、2参照)

IV-1 学習指導の重点（「どちらかといえば」を含んで選択した割合）

(%)

割合の高い項目（⇔割合の低い項目）	教員 (n=1863)	保護者 (n=3876)	学校評議員 (n=515)
自ら考える力・表現する力（⇔多くの知識や技能）	62.2	67.2	78.4
基礎・基本の学習（⇔発展的な学習）	89.0	81.8	81.0
集団の中で学び合う（⇔進度に応じて個別に学ぶ）	76.7	67.4	71.7

IV-2 教科やその他の活動の重点（上位3項目抜粋）

	保護者(n=3876)	学校評議員(n=515)
1位	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 (68.5%)	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 (81.2%)
2位	コミュニケーション能力を高める英語教育 (49.4%)	健やかな心と体をはぐくむ教育 (51.5%)
3位	豊かな心を育む道徳教育 (36.8%)	豊かな心を育む道徳教育 (50.7%)

V 教員像

教員の業務に関する印象や理想の姿を、子ども、保護者、学校評議員、教員自身に聞くことで、教員がおかれている状況と求められる教員像について把握することにした。

調査の結果、教員の業務の現状については、教員、保護者、学校評議員のいずれも、「授業づくりや子どもと接することなどに費やす時間が少ない」と回答している。

また、理想とする教員像については、教員と子どもは「わかりやすい授業」が最も割合が高く、保護者と学校評議員は「子どもの理解、適切な対処指導」、「子どもの意欲向上」に力のある教員を求める割合が高くなっている。

V-1 現在の教員についての印象（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計の上位3項目抜粋）

	保護者(n=3876)	学校評議員(n=515)
1位	子ども一人ひとりと接する時間が少ない (73.4%)	子ども一人ひとりと接する時間が少ない (67.6%)
2位	子どものことに熱心に取り組む教員が少ない (55.1%)	授業などにいろいろな工夫をしている (65.9%)
3位	子どもに信頼されている (44.2%)	子どもに信頼されている (57.9%)

V-2 日々の業務で感じていること（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計上位3項目抜粋）

	教員（小） （n=806）	教員（中） （n=515）	教員（高） （n=354）	教員（盲・ろう・養） （n=188）
1位	授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった（81.1%）	授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった（87.0%）	授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった（87.6%）	教員間での仕事の分担や業務量に差があった（70.2%）
2位	特別な支援を必要とする児童・生徒のタイプが多様になり、対応に苦慮している（80.2%）	特別な支援を必要とする児童・生徒のタイプが多様になり対応に苦慮している（84.5%）	教員間での仕事の分担や業務量に差がある（85.6%）	授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった（67.6%）
3位	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応するのか迷うことが多くなった（60.8%）	教員間での仕事の分担や業務量に差がある（77.3%）	特別な支援を必要とする児童・生徒のタイプが多様になり対応に苦慮している（59.3%）	特別な支援を必要とする児童・生徒のタイプが多様になり対応に苦慮している（58.5%）

V-3～5 めざす教員像、望ましい教師像、教わりたい先生（上位3項目抜粋）

	教員（n=1863）	保護者（n=3876）	学校評議員（n=515）	小中高生（n=4476）
1位	わかりやすい授業をする（68.0%）	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる（66.8%）	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる（64.9%）	わかりやすい授業をしてくれる（70.1%）
2位	児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導できる（64.9%）	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる（64.3%）	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる（64.7%）	自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる（42.8%）
3位	児童・生徒のやる気を引き出し、意欲を高められる（49.0%）	わかりやすい授業をしてくれる（46.1%）	信頼され、尊敬される人格を持っている（49.7%）	やる気を出させ、意欲を高めてくれる（39.0%）

VI 学校と地域

「学校と地域」の関係について、教員、保護者、学校評議員に聞くことで、学校活動に地域と家庭がどのように関わるべきと考えているのか把握することにした。

調査の結果、教員は、地域と学校の関わり方について「情報交換と活動支援など」と回答した割合が高く、地域が学校運営に直接関わることを望む回答は低い割合となっている。

それに対して、学校評議員は、「保護者の学校教育活動や地域の行事への積極的な参加」や「家庭や地域の人による授業への協力」など、地域や保護者が学校の取組みに参画する必要があると回答する割合が高くなっている。

また、保護者ができる地域活動としては、「あいさつなどの声かけ」、「子どもへの注意」、

「登下校時などの安全確保への協力」などの割合が高くなっている。(VI-1、2、3参照)

VI-1 学校への地域の望ましい関わり方 (上位3項目抜粋)

教 員 (n=1863)	%
地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む	75.8
地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する	16.2
地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する	5.4

VI-2 学校・家庭・地域との連携 (上位3項目抜粋)

学校評議員 (n=515)	%
学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする	56.9
保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する	46.0
家庭や地域の方が特技や能力を生かして学校の授業に協力する	38.8

VI-3 地域で活動できること (上位3項目抜粋)

保 護 者 (n=3876)	%
子どもへのあいさつなどの声かけ	71.3
ルールやマナーを守らない子どもへの注意	56.7
登下校時などの子どもの安全確保への協力	52.6

VII 学校のあり方

学校が直面する課題について、大人、子どもそれぞれの立場から聞くことで、これからの学校のあり方についての考えを把握することにした。

調査の結果、教員、保護者、学校評議員のいずれも、諸課題の解決に向けて、「個人だけでない学校全体での取組み」、「教員の指導力向上」、「地域の教育力を生かした学校づくり」を必要とする回答の割合が高い。(VII-1参照)

VII-1 これからの学校のあり方 (「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計上位3項目抜粋)

	教員 (n=1863)	保護者 (n=3876)	学校評議員 (n=515)
1位	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体で取り組む (93.6%)	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体で取り組む (89.7%)	授業の質の向上や問題行動への対応などには、個人のみだけでなく学校全体で取り組む (95.5%)
2位	教員一人ひとりが自ら指導力を自覚し、それぞれの能力に応じた向上に努める (89.4%)	指導力の高い教員を増やしていく (70.8%)	指導力の高い教員を増やしていく (84.9%)
3位	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める (78.9%)	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める (66.6%)	地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める (83.1%)

VIII 県が取り組むべき施策

「県が取り組むべき施策」や「神奈川らしい教育に生かしたいもの」について、教員、保護者、学校評議員に聞くことで、本県の教育行政に期待するところや、神奈川の特徴を生かした独自の教育についての考えを把握することにした。

調査の結果、「県が取り組むべき施策」については、「少人数学級など、きめ細かな個に応じた学習指導」、「いじめ・暴力行為、不登校などへの対策」への回答の割合が高くなっている。

また、「神奈川らしい教育に生かしたいもの」については、「個性豊かでたくましい人づくり」が三者共に最も多い回答になっている。(VIII-1、2参照)

VIII-1 県が取り組むべき施策 (上位3項目抜粋)

	教員 (n=1863)	保護者 (n=3876)	学校評議員 (n=515)
1位	少人数学級などきめ細かな学習指導の充実 (76.9%)	少人数学級などきめ細かな学習指導 (61.9%)	少人数学級などきめ細かな学習指導 (60.2%)
2位	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 (46.7%)	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 (58.0%)	いじめ・暴力行為、不登校などへの対策 (41.9%)
3位	障害のある児童・生徒への支援 (33.2%)	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり (33.3%)	多様な学習ニーズに対応した特色ある学校づくり (39.4%)

VIII-2 神奈川らしい教育に生かしたいもの (上位3項目抜粋)

	教員 (n=1863)	保護者 (n=3876)	学校評議員 (n=515)
1位	個性豊かでたくましい人づくり (39.0%)	個性豊かでたくましい人づくり (40.0%)	個性豊かでたくましい人づくり (46.0%)
2位	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動 (30.7%)	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション (34.7%)	共生社会の実現をめざすボランティアや社会貢献活動 (31.7%)
3位	神奈川の歴史や伝統文化・風土 (29.5%)	温暖化やエネルギーなど地球規模で取り組むべき問題 (30.0%)	社会のグローバル化に対応した国際理解や外国語コミュニケーション (31.3%)

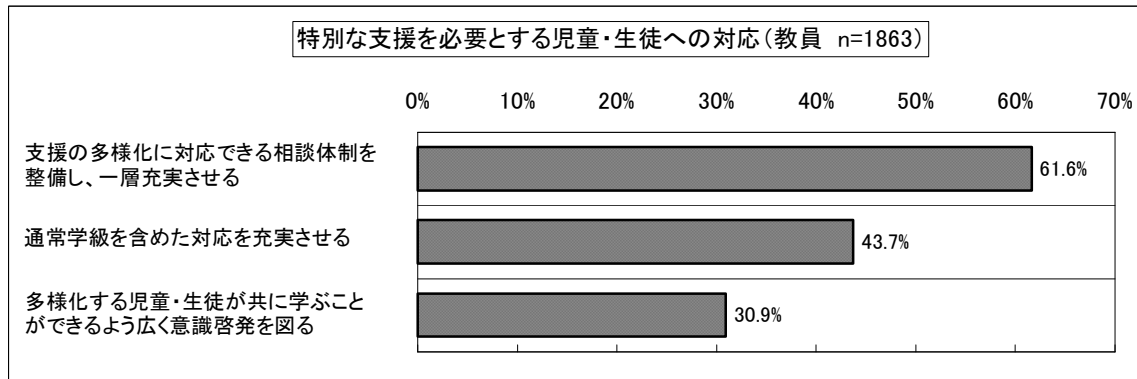
IX 特定課題

学校における教育活動のうち、特別支援教育、キャリア教育、地域貢献活動・ボランティア活動、教員研修という4つの特定課題に注目して教員に聞き、現状と今後の取組に向けた課題を把握することにした。

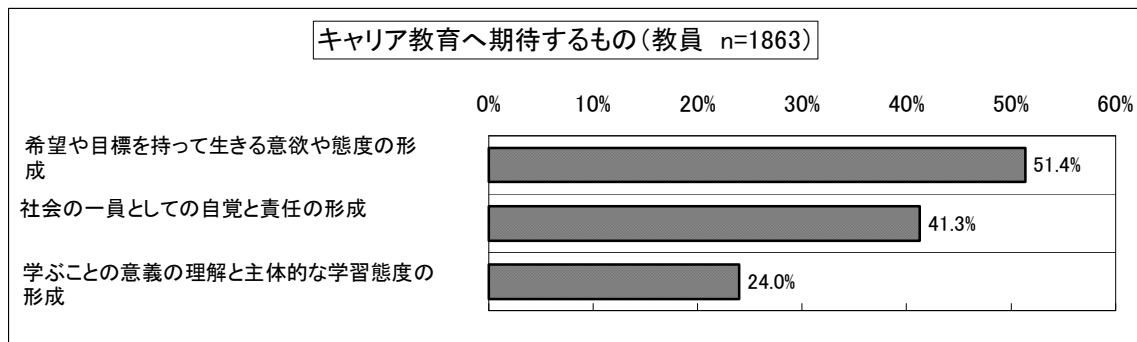
特別支援教育の対応については、相談体制や通常学級を含めた対応の充実に期待が寄せられており、キャリア教育については「希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成」を期待している回答が最も多かった。また、ボランティア活動については、教員自らの

ボランティア活動経験を聞いたが、全体で7割以上の教員が自らボランティア活動に参加した経験を有していた。(IX-1、2、4参照)

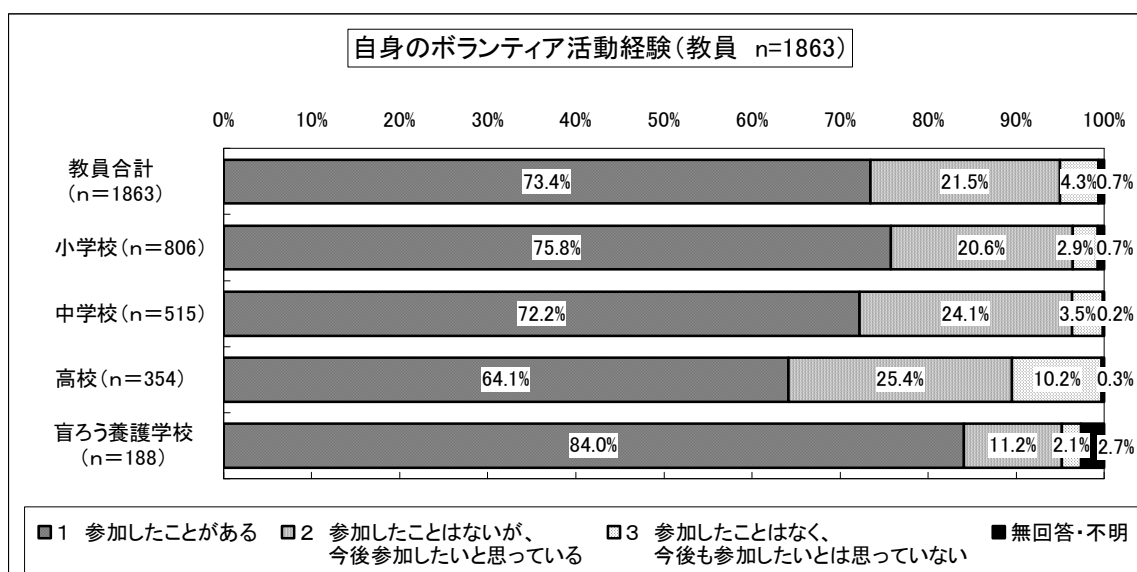
IX-1 特別な支援を必要とする児童・生徒への対応 (上位3項目抜粋)



IX-2 キャリア教育へ期待するもの (上位3項目抜粋)



IX-4 教員自身のボランティア活動経験



調査項目一覧

項目	教職員	保護者	学校評議員	小5	中2	高2	盲ろう養
I 子どもの実態							
1 教育現場での児童・生徒の課題(最近の子どもの印象)	①	①	①				
1 自分自身について				①	①	①	①
2 子どもに影響を与えている存在	②	②	②				
2 自分とかかわりの深いもの				⑥	⑥	⑥	⑥
3 夢中になれるとき(楽しいと感じるとき)				②	②	②	②
4 悩んでいること				③	③	③	③
5 相談相手				④	④	④	④
6 マナー・ルールの意識				⑤	⑤	⑤	⑤
7 校外での生活				⑩	⑩	⑩	⑩
II 子どもの将来像							
1 これからの世の中				⑧	⑧	⑧	⑧
2 どのような大人になりたいか				⑦	⑦	⑦	⑦
3 どのような大人になってほしいか	③	③	③				
4 はたらくことについて				⑨	⑨	⑨	⑨
III 家庭教育							
1 学校・家庭・地域での教育課題	④	④	④				
2 学校の役割・家庭の役割	⑤	⑥	⑥				
3 教育に関する情報のよりどころ		⑤	⑤				
4 自分の子をどの位把握しているか		⑦					
5 家庭でのしつけや教育の内容		⑧					
6 塾や家庭教師について		⑨					
7 塾などに行かせる理由		⑩					
IV 学習活動							
1 学習指導の重点	⑧	⑪	⑦				
2 教科やその他の活動の重点		⑫	⑧				
3 勉強する理由(学校に行く理由)				⑬	⑬	⑬	⑬
V 教員像							
1 現在の教員についての印象		⑬	⑨				
2 日々の業務で感じていること	⑥						
3 望ましい教員像		⑭	⑩				
4 めざす教員像	⑦						
5 教わりたい先生				⑭	⑭	⑭	⑭
VI 学校と地域							
1 学校への地域の望ましい関わり方	⑩						
2 学校、家庭、地域との連携			⑪				
3 地域で活動できること		⑮					
VII 学校のあり方							
1 諸課題の解決の方策と学校のあり方	⑨	⑯	⑫				
2 学校に行きたくないとき				⑪	⑪	⑪	⑪
3 学校に行きたくない理由				⑫	⑫	⑫	⑫
4 学校がどのようにになったらよいと思うか				⑮	⑮	⑮	⑮
VIII 県が取り組むべき施策							
1 県が取り組むべき施策	⑪	⑰	⑬				
2 神奈川らしい教育に生かしたいもの	⑫	⑱	⑭				
IX 特定課題							
1 特別な支援を必要とする児童・生徒への対応	⑬						
2 キャリア教育へ期待するもの	⑭						
3 ボランティア活動へ期待するもの	⑮						
4 自身のボランティア活動経験	⑯						
5 あなた自身のボランティア活動経験の内容について	⑰						
6 ボランティア活動に参加しなかった主な理由	⑱						
7 現在の様々な教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方	⑲						

※○数字は、調査票の設問番号